

第2回
鋼構造物の非線形数値解析と
耐震設計への応用に関するシンポジウム

報告書

1999年3月

土木学会鋼構造委員会
鋼構造物の耐震検討小委員会



B 1 1 0 8 0 6 2 B
土 木 図 書 館

08

01

第2回
鋼構造物の非線形数値解析と
耐震設計への応用に関するシンポジウム

報告書

登録	平成11年5月28日
番号	第 46901 号
社団法人	土木学会
附属	土木図書館

1999年3月

土木学会鋼構造委員会
鋼構造物の耐震検討小委員会

ま え が き

本冊子は、土木学会鋼構造委員会の下に設置されている鋼構造物の耐震検討小委員会の主催で平成10年11月13日、14日に名古屋国際会議場で行われた、「第2回鋼構造物の非線形数値解析と耐震設計への応用に関するシンポジウム」の報告書である。

本報告書は、シンポジウムで発表された招待論文1編および一般論文40編について

(1) 論文内容紹介

(2) 質疑応答内容

を各セッションごとにまとめ、付録として

(3) 論文アブストラクト

を集めた構成になっている。(1)と(2)は各セッションの2名の座長に執筆をお願いし、(3)は各論文1ページ目のアブストラクトを集めたものである。本報告書を読めば、シンポジウムに参加されなかった方でも会議の内容をある程度理解できると思われる。

土木鋼構造物の耐震関連の研究は阪神・淡路大震災後急速に進展した。しかし、研究の歴史が浅いこと、また研究者の数が少ないことなどから、鉄筋コンクリート構造あるいは建築構造分野での耐震研究のレベルに比べ、土木鋼構造物の研究は、まだまだ見劣りする状態である。研究レベルの速やかな向上を図るためには、このようなシンポジウムを継続的に開催し、研究者と設計実務家の間で情報・意見交換を密にしていくことが重要であると考えられる。さらに、シンポジウムの開催にとどまらず、本報告書のように発表論文の評価を含めた記録を残しておくことは、研究の無駄な重複を省き、さらにこの方面の研究に新たに着手しようとしている研究者に的確な情報を提供する意味から大事なことである。これらの点を考慮して、座長の方々には、論文内容紹介は単なる論文のサマリーではなく、各論文の特色、重要性、State-of-the-artにおける位置づけ、評価などに加えて、各セッションテーマの将来展望なども記載していただくようお願いした。

最後に、委員長の過大な要求にもかかわらず、絶大なるご協力をいただきました座長の方々に深く感謝いたします。

平成11年3月1日

土木学会鋼構造委員会
鋼構造物の耐震検討小委員会
委員長 宇佐美勉 (名古屋大学)